長洲町立長洲小学校　校長便り　No.７１

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年２月１３日(月)

The greatest risk is standing still.　現状を維持しようとする事が最大のリスクである。英語の格言

現状維持、前例踏襲…、現状認識をせずに課題から目を背けているような言葉だと思う。先が見通せない時代だからこそ新しい課題に新しい手段や方法で取り組み、新しい価値や文化を生み出していきたい。

徒然

先日、人間ドックに行った。年齢的に体調管理には気を遣う。１０年ほど前から微妙な変化が出てきていることから、毎度のドックにてお医者様に尋ねてみる。「この数値は心配しなくてもいいのでしょうか?」すると返ってくる言葉はこうだ。「大丈夫です、心配いりません。加齢によるものです。」お医者様に言わせれば、私は年齢的にはまだまだ健康な方らしい。そして最後に告げられることは「今の体重を維持できるように努力してください。食事は塩分控えめに。」

先日、ある方からこう言われた。「人間の体は食べた物からできている。だからバランス良く食べなきゃ。」確かにそうだ。野菜中心の食事が私には良いらしい。今後もこの調子でいこう。

卒業前雑感　言葉の真意を考える

最近、よく考えるようになったことがあります。それは、相手の発した言葉の裏にある本当の意味、真意についてです。この人は一体何を言いたいのか、それを冷静に考えることで、ありがとうという感謝の気持ちになります。こんなことを書くのには、私自身の今までの経験が基になっています。人付き合いの中には「良かれ」と思っての言動行動がありますよね。私も、「良かれ」と思ってやったことが裏目に出ることが多々あります。そんな時心の中でぶつぶつ呟きます。「あなたのためにやってあげたのに！　それも分からないの?」　学校でもよくやってしまいます。子供達への何気ない一言、私は「良かれ」と思って指導助言をしていますので、子供達が納得していない顔を見たり、保護者の皆様から連絡を頂いたりすると、「またやってしまったか…。」と反省する毎日です。

中学校へ進学する子供達に伝えておきたいことに（自戒も含めて）「言葉の裏にあるものを考える大切さ」があります。先生方の指導の裏にある本質を考えてほしいのです。そうすることで、「先生方（友達）は私達のことを考えてこう言ってくれたんだ。」という気持ちになり、それに対する感謝の念も生まれてきます。これからの学生生活の中では特に必要ですね。中学校での生徒指導などは、「ダメなことはダメ」「是々非々」という視点で厳しく指導されますので、その度に悪態をついていたら、その人は損をすることになります。どのような場面で損をするのか、それは端的に言えば3年後に分かるということでしょうか。最近の学習塾ではそういった態度や身なり、躾まで行っているところもあるようです。なかなか難しいことですが、「言葉の真意」を考えながら人と接することができれば、先生方や友達との付き合いも円滑に行われ、楽しい中学三年間になっていくことでしょう。

シリーズ「自分を語る」#71

「先生、ほかに仕事はありませんか?」「手伝いましょうか?」等の声が聞かれるようになれば、自治意識が芽生えてきた証拠と言えます。そこで、私は子供達にこう言いました。

「学級の仲間のために、自分に何ができるか考えてごらん。」

「3年1組で直した方がいい所はどこだろう。何をすべきか考えてごらん。」

本来子供達は「何かしたい」と考えているのであり、退屈は大嫌いです。退屈な集団では必ず問題が起きます。問題を怒らないようにするためには、子供達に暇を与えず「何かしたい」という欲求を満たし、そのための課題解決に対して、常に取り組ませておくことが重要です。私は当時、ありとあらゆる手段を講じて、子供達に仕事をさせました。これが奏功しました。1学期の半ばには、ある程度の自治が成り立っていました。

次の課題は、あるやんちゃな男の子の「我がまま」でした。A男は2年生の頃からいわゆるガキ大将的な存在で、A男が言えば良いことでも悪いことでも、集団の基準となっていたようでした。私はA男を学級の舵取り役にすべく、少々荒療治に出ました。彼にとってはそれは必要なことで、是々非々の判断力を育むために重要な取組です。

ある日、A男は友達をいじめました。幸いすぐに発覚し、長期にわたるいじめにもなりませんでした。それで終わってはいけません。私は学級会でA男のしたこと「いじめ」について話し合いをすべきだと提案しました。A男は「俺は悪くない」って顔をしていますが、謝れば済むとか自分が認めたから済むというようなことで済ませたくありません。トコトン話し合わせることにしました。そして、悪いことには悪いと言える集団に作り上げるべく、戦略を練りました。これまでA男の顔色を窺ってばかりで、善行を躊躇していた子供達に布石を打ちました。休み時間や給食時間などに「正しいことを言っている人は、先生は徹底的に味方するよ。」と伝え、学級会で自由な発言を促しました。

狙いは的中し、子供達のそれまで積もり積もったA男への不満が爆発しました。学級会だからこそ発表できたのでしょう、是々非々が通る集団にしたいという、子供達の切なる願いがあったようです。子供達の話し合いを見ながら、担任として「いい感じ…」とほくそ笑みながら、最後に全体に話をしました。

「A男、お前はみんなから良いことを教えてもらったな。そして、どうもみんなはこれまでのこと許してくれそうだぞ。どうだ、みんなは?」

みんな無言でニコニコ笑って、頷いています。A男もちょっと涙ぐみながら笑っていました。こうして、3年1組は楽しい時間を過ごしていくことになります。

さて、これから先は担任としての腕の見せ所です。とにかく暇を与えては何か問題が起きます。暇を与えないためには、そうですねぇ、大体3ヶ月スパンで目標設定する必要があります。何にしょうか…。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）